

令和2年6月26日
農推第1189-3号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

6月から8月は農薬危害防止運動月間です。農薬の安全かつ適正な使用を徹底し、農薬の使用に伴う事故・被害を防止しましょう。

特に発生に注意

ぶどう

べと病

・露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要です。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・6月～8月に成虫が発生し、とくに6月中旬～7月中旬に多いです。ほ場を見回って、見つけ次第捕殺しましょう。また、本種が発生している園では、成虫に対して**モスピラン顆粒水溶剤**などを散布しましょう。
- ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。
- ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとりましょう。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻きましょう。

果樹類全般

果樹カメムシ類

- ・今年度は全国的に発生が多く、府内でも一部地域では平年より発生が多くなっています。
- ・園内で発生を認めたら、**アディオン乳剤（かんきつ、もも、かきなど）**、**スタークル（アルパリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）**などを散布しましょう。

なす

アザミウマ類

- ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行いましょう。
- ・ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止しましょう。

野菜類

シロイチモジヨトウ

- ・ねぎでの発生が多いですが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害します。
- ・老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、中齢幼虫までに薬剤で防除することが重要です。



ぶどう べと病の病斑



クビアカツヤカミキリのフラス



ミナミキイロアザミウマ成虫※

次回の情報は7月末にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>

◎「防除指針」 <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

水稻

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆補植用の苗が発生源になることが多いので、早めに処分する。
- ◆いもち病の常発ほ場では、発生前にオリゼメート粒剤、フジワ
ン粒剤、コラトップ粒剤5などを散布する。
- ◆発生を認めたらブラシンフロアブルなどを散布する。

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



縞葉枯病発病株



ヒメトビウンカ※

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病。
- ◆り病株では、新葉が垂れ下がって黄化枯死する（ゆうれい症状）。

防除のポイント

- ◆6月下旬～7月上旬の感染が多いので、ウンカ類に登録のある箱施用剤を施用していないほ場では、スタークル粒剤・アルバリン粒剤やトレボン粒剤を施用する。
- また、ヒメトビウンカが飛来しないように、ほ場周辺のイネ科雑草を除草する。

スクミリングガイ（ジャンボタニシ）

生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリングガイ)から稲を守りましょう！」をご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>



成貝



卵塊

果樹

ぶどう

べと病



被害葉

特徴

- ◆雨が多いと発生しやすいので、梅雨時期にまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要。
- ◆予防的に**ICボルドー66D**、**ICボルドー48Q**、**ストロビードライフフロアブル**、**レーバスフロアブル**、**ゾーベックエニケード**などを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

晩腐病



被害果※

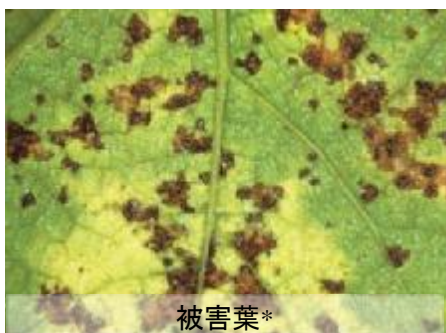
特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実に発生しやすい。
- ◆デラウエアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きひげなどで越冬する。

防除のポイント

- ◆排水や通風を良好にする。
- ◆笠かけや袋かけを行う。
- ◆前年度の発生状況をふまえ、**フルーツセイバー**、**オンリーワンフロアブル**、**ファンタジスタ顆粒水和剤**などを予防的に散布する。

褐斑病



被害葉*

特徴

- ◆米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア、キャンベルアーリーに発生が多い。
- ◆多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

防除のポイント

- ◆被害葉は園外に持ち出し処分する。
- ◆発生を認めたら、**フルーツセイバー**、**オンリーワンフロアブル**、**ホライズンドライフフロアブル**などを散布する。

チャノキイロアザミウマ



被害果

特徴

- ◆巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいため注意する。

防除のポイント

- ◆**コルト顆粒水和剤**、**スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤**、**モスピラン顆粒水溶剤**などを散布する。
- 注) 幼果期以降に使用する場合は、果粉溶脱を生じるおそれがある。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

果樹

もも

せん孔細菌病

せん孔細菌病の特徴および防除方法については、下記リンク先の
3月25日発表の防除情報「せん孔細菌病(もも)の発生に注意」をご確認ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0203%20momo%20senkou.pdf>

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆産卵期から幼虫加害期(5月上旬～7月下旬)に**モスピラン顆粒水溶剤**、**アディオン乳剤**、**ダントツ水溶剤**、**テツパン液剤**などを散布する。

温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆梅雨期など降雨が多くなると発生が増加する。

防除のポイント

- ◆**ジマンダイセン水和剤**、**ペンコゼブ水和剤**、**エムダイファー水和剤**などを予防的に散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
※かんきつ(みかんを除く)では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

ミカンハダニ



被害葉*

特徴

- ◆梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**ダニエモンフロアブル**、**コロマイト水和剤**などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

いちじく

アザミウマ類



特徴

◆果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆スピノエース顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。
- ◆ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法については、下記リンク先の5月13日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoujyouhou/R0205kubiaka.pdf>

果樹類全般

果樹カメムシ類

果樹カメムシ類の特徴および防除方法については、下記リンク先の6月3日発表の防除情報「果樹カメムシ類に注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoujyouhou/R0206kame mushi.pdf>

なす

すすかび病



特徴

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ダコニール1000、ベルコート水和剤を予防的に散布する。
- ◆発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどを散布する。

うどんこ病



特徴

- ◆窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、プロパティフロアブル、スコア顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病

5月26日発表の防除情報「なす灰色かび病に注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0205haikabi.pdf>

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆露地栽培では、天敵昆虫の温存のため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
- ◆発生を認めたら、アフーム乳剤、ディアナSC、プレオフロアブル、モベントフロアブルなどを散布する。

野菜

トマト・ミニトマト

葉かび病・すすかび病



特徴

◆ハウスなどの多湿な環境で、日照不足や樹勢が落ちると発生しやすい。

《すすかび病》

◆葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

灰色かび病



特徴

◆20℃くらいの多湿時に発生が多い。花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

◆発生を認めたら、ロブラール水和剤やアフエツトフロアブルなどを散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ ※

特徴

◆タバココナジラミがTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4 mmのネットを展張する。
- ◆ベストガード水溶剤、スタークル(アルパリン)顆粒水溶剤などを散布する。

野菜類・花き類全般

シロイチモジヨトウ

6月26日発表の防除情報「シロイチモジヨトウに注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyovyouhou/R0206shiroichi%20.pdf>

ハスモンヨトウ



若齢幼虫

特徴

◆8月以降多く発生する。さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

防除のポイント

◆発生を認めたら、**アディオソニオン乳剤**（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、**ディアナSC**（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、**コテツフロアブル**（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、**プレバソフロアブル5**（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については
「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、**アクセルフロアブル**（非結球アアぶらな科葉菜類など）、**ディアナSC**（非結球アアぶらな科葉菜類など）などを散布する。

アブラムシ類



ワタアブラムシ ※

特徴

- ◆作物を吸汁し、樹勢を低下させる。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、**アドマイヤー顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマト、豆類（未成熟）など）、**コルト顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、**ウララDF**（なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど）を散布する。

きく

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
 - ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
 - ◆**ストロビーフロアブル**等を散布し、予防に努める
 - ◆発生を認めたら、**トリフミン乳剤**を散布する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆**ダコニール1000**、**ストロビーフロアブル**などを散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ 花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆ 発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。